

縄文のうた

若泉 喜則(茅野市)

はるか 遙か はるか 遙かに遠い おかしな話

ムラ ハラ ヤマ ソラ

縄文の時 人は すでに 今と同じ

自然の偉大さを知り 自然の恵みを知っていた

男の役目 戦いは 愛する人のため

家族のため 社会のため

ムラ ハラ ヤマ ソラ

女はやさしく 家族を愛し 美しいアクセサリーで 身を飾り

愛する人を思っていた

ムラ ハラ ヤマ ソラ

きっと人は はるか 遙か はるか 遙かな先を

星の下で 思っていたに違いない

ムラ ハラ ヤマ ソラ

縄文の時は 終わっていても 人の思いの丈は

つづいているだろうと

ムラ ハラ ヤマ ソラ